

症例報告

動機づけ面接法（MI）により高齢者の口腔衛生の改善ができた1症例

千神八重子¹⁾ 江國 大輔²⁾ 森田 学³⁾

概要：本症例（女性，引継ぎ時85歳）は，初診時に慢性歯周炎と診断され，歯周基本治療を受けた後に Supportive Periodontal Therapy (SPT) を受けていた。しかしその後，プラークコントロールは悪化し，初診時から18年経過した時点において O'Leary のプラークコントロールレコード (PCR) は55%，また平均歯周ポケット深さ (PPD) 2.8 ± 3.4 mm で，PPD4 mm 以上の部位が30%であった。また，一人暮らしになり，プラークコントロールの悪化に加えて，生活習慣の乱れ，自己否定の傾向がみられた。そこで，動機づけ面接法 (MI) の技法を用いて，プラークコントロールを改善することを目標にした。患者自身の自律性を引出し，自己決定を尊重することに主眼を置き，やる気を誘うような会話の流れを導いていくことに重点を置いた。その中で，共感をもって傾聴することに時間を割いた。その結果，MI 開始2年後の最終評価時には，PPD はすべて3 mm 以下となり，平均 PPD は 1.9 ± 1.2 mm であり，PCR は25%に改善した。また，ブラッシングの自己効力感も改善して，歯の喪失リスクが低下する可能性が示唆された。MI の技術を活用することによって患者の自己効力感の向上とともに，プラークコントロールの改善につながったと考えられる。以上のことから，SPT 期における長期的な歯周組織の安定のためには，MI を含めたプロフェッショナルケアが重要であることが示唆された。

索引用語：高齢者，動機づけ面接法，口腔衛生

口腔衛生会誌 67：29-34, 2017

(受付：平成28年7月20日／受理：平成28年9月5日)

緒言

歯周病は，口腔だけでなく，全身の健康にも影響する^{1,2)}。歯周病の予防・治療には，プラークコントロールの確立が重要である。また，歯周治療により病状安定となった歯周組織の健康状態を維持するためには，定期的に Supportive Periodontal Therapy (SPT) を効果的に行うことが重要である³⁾。よって，SPT 期におけるプラークコントロールは，歯周組織の安定に不可欠である。しかし，プラークコントロールは時間とともに悪化する⁴⁾。

プラークコントロールを改善する方法において，動機づけ面接法 (motivational interview：MI) が有効であるといわれている⁵⁾。MI は，Miller と Rollnick によって考案されたもので⁶⁾，特徴は，「現状を変えたいと願う者の希望および求める価値を実現しようと提案すること」である⁷⁾。MI は治療の一環として行われる保健指導の効果を一層高める方法として期待できる。例えば，

アルコール依存症患者の例⁷⁾を挙げると，肝臓が良くなるまで禁酒するように担当医師が指導しても，治療動機のない患者が実際に断酒するとは限らない。MI では，断酒したい気持ちを増強し，飲みたい気持ちを減少させれば，患者の気持ちは断酒へと傾くという戦略の下，そのような気持ちの傾きを面接によって作り出し，断酒の決意と実行へと誘導する。今回，歯科衛生士による MI を用いて，プラークコントロールの改善に繋がった1症例を報告する。なお，本報告では，MI による自己効力感⁸⁾への影響を調べた。また，本報告に際しては患者の同意を得ている。

症例

1. 生年月日：昭和4年4月14日
2. 性別：女性
3. 初診年月日：平成8年9月25日（67歳7か月）
4. 初診時の主訴：#43, 44 陶材焼付け冠の精査
5. 現病歴：近医で上下顎の歯冠補綴処置を受けた（時

¹⁾ 岡山大学病院歯科衛生士室

²⁾ 岡山大学病院予防歯科

³⁾ 岡山大学大学院歯薬学総合研究科予防歯科学分野